

新しい隣人“ムスリム”に対しては“おもてなし”の心で

中村 冠倫優

ヨーロッパを中心に世界で、イスラム教徒（ムスリム）の女性が顔を覆う行為を制限する法律の制定が相次いでいる。パリ五輪でフランス政府が、自国のムスリム女性に髪を隠す布「ヒジャブ」の着用を禁止、国連関係者が女性差別であると非難するなど、各国の社会問題、ひいては国際問題となっている。

各国がムスリムを警戒するのは、様々な事情により彼らの流入が増えたことでテロなどが起き、社会が不安定になったと感じているからだ。様々なイスラム過激派の活動は世界を震撼させ、恐怖に陥れた。イスラム教とテロ活動は直接関係ないが、両者の繋がりを連想するのは無理もないことかも知れない。

だが、このような国際情勢を、日本人はどこか対岸の火事と受け止めてははいないだろうか。急増するイスラム教徒は、2070年にはキリスト教徒を超え、世界で最大勢力になると言う。日本で暮らすムスリムも20万人を超え、モスクも100か所以上建設されている。また日本を観光で訪れるムスリムも激増、もはや彼らを無視することはできない状況だ。

だが宗派や国籍を超えて、炊き出しやボランティアで生活困窮者に手を差し伸べる彼らの姿はヨーロッパで敬遠されている彼らとは対照的だ。日本は少子高齢化により、移民の力が必要になるかも知れない。結婚や信仰の変化でイスラム教徒になる日本人も確実に増えており、社会はイスラムを含めた多様化が来るのは必定である。だが、私は彼らの何を知っているのだろうか。

「新しい隣人」とのおつき合いを考える時、基本となるのは食生活だろう。お互いの思いや考えを話しあい、親睦を深めるのに飲食はつきものだ。海外からの客を日本食でもてなしたり、逆に渡航先の国の料理でもてなされる時、心は互いに打ち解け合い、実りある会談・会議となることが多い。だがそれは決して「食事」がメインではない。「おもてなしの心」こそが重要なのだ。だからムスリムの食生活におけるルールを知ることが、これからは必要になるだろう。

ムスリムにとってハラールとは「安全で有益なもの」を指し、ハラームとは「有害で禁止されたもの」を意味する。イスラム教の聖典「コーラン」に「死骸、血、ブタ肉、あるいは神以外の名で屠られた汚らわしいものは食べてはならない」とされている。だからムスリムはブタ肉を避け、同様に飲酒もしないことは割と知られている。だがブタやアルコールに由来する物はすべて駄目だと知って驚いた。医療で言えばアルコールとは別の物での消毒を考えなければならない。薬に使うカプセルはブタ

から得られたゼラチンで作られたものが多く、別のゼラチンからできたものを使用しなければならない。化粧品でもブタから得られる成分は許されず、女性が爪先を塗るマニキュアでさえ、最近アルコール不使用で水を通す物が開発され、好評だと言う。世界でムスリムが増加している現代において、この「ハラール市場」の需要に応じていくことが、企業にとって命運を分けると言えよう。「ハラール市場」は拡大する一方である。

ムスリムは食品に限らず、「ハラール」の認証を受けた物を好む。製造過程だけでなく輸送過程など、禁止されたものに触れてしまった物はすべて「ハラーム」であるが、この認証マークがついていることで、彼らの安全は保証されるからである。例えば食品はブタ肉と一緒に輸送されたり、一時でも場所を共用されてはならず、完全に隔離されなくてはならない。そうした条件をすべて満たした品がハラールの認証を受けている。日本を含めて世界各国で認証機関が生まれているが、まだ国際的に統一されたハラール認証マークは存在しない。世界各国での規則や慣習が異なり、「ハラール」か「ハラーム」であるかの基準も違うからだと聞いた。となると、相手のムスリムの国籍や個人としての信条などをよく聞いた上で、先方が“受け入れられる”やり方でもてなさなければならない。そんな「おもてなしの心」こそが今一番問われているのではないだろうか。

ブタの心臓を人体に移植することに成功したと、数年前のニュースにあった。世界初のこの手術のスタッフにパキスタン人の医師がいたことも話題になった。イスラム教徒の彼にとって“不浄な”ブタの心臓を人間に移植することは、許されないことではないか、とイスラム法学者の間でも議論になった。しかし、この医師は「宗教において、人の命を救うことほど至上の行為はない」と語ったそうだ。また心臓病に苦しむイスラム教徒はブタの心臓の移植手術を喜んで受けるだろうか。

科学の発展は従来の倫理や道德観を超えた難しい局面を生み出すことがある。だがここでも大切なのは「おもてなしの心」だ。ムスリムに限らずすべての国籍・宗派を超えて互いを尊重し、理解し合うことが人類の明るい未来に繋がると私は考える。

【参考文献】

佐々木良昭「ハラールマーケット最前線」実業之日本社 2014 年

福島康博「Q&A ハラールを知る 101 問」解放出版社 2018 年

森下翠恵・武井泉「ハラール認証取得ガイドブック」2014 年

山折哲雄・私市正年「図解でわかる 14 歳から知るイスラム教」太田出版 2024 年

東京都産業労働局観光部受入環境課「ムスリム旅行者おもてなしハンドブック」2021
年